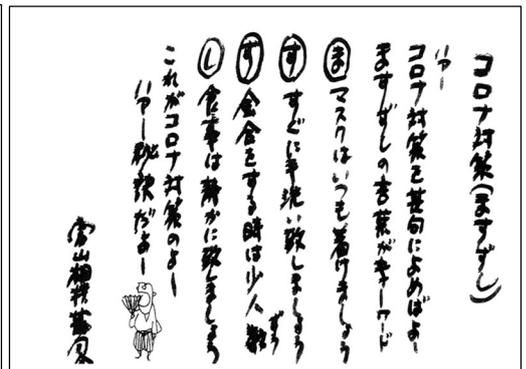




新会員

富山市議会議員 飯山勝彦氏



スダコー(株)に未来はあるンか？

スダコー株式会社 代表取締役 橋本 康

①▲25% ②▲33% のつけから意味不明な数字を並べて恐縮だが、先ず当社（スダコー(株)）が「紙」の卸商業者であることを前提に、2つの数字の説明を簡単にしていこう。

2つの数字はそれぞれ10年前と現在の比較である。①は全国の紙卸商業社数 ②は紙の全国年間販売数量の比較であり、いずれも減少率を示している。早い話がここ10年間で全国の四分の一の同業者が倒産もしくは廃業をしており、結果、商売の基本である「紙」販売が3割以上も大幅に落ち込んでしまっている訳である。

よく語られる減少要因としては、デジタル化の急速な進展が紙離れを一層加速しており、加えてコロナ禍が商業印刷物に大きな影響を与え、種々の印刷物件の減少や廃止を漸減させているなどがある。

と、ここまで書けば話が暗くなっており紙業界は斜陽産業でスダコーは大丈夫だろうか心配される向きもあるだろう？

勿論、当社の状況も大いに苦戦を強いられているが、数年前から本業の「紙」以外の柱を作っていこうと、新しい商材展開を若手中心に行っている。この場を借りて、展開製品を3つばかり紹介しようと思う。

①は「無電極照明」で2020年6月から、「水銀に関する水俣条約」により水銀使用製品は製造禁止となっている。対象品の一つである水銀灯は代替品としてLED照明が主流だが、LEDの光は直線的で拡散せず、目に刺さる様な痛さもあり設置に不適當な場面がある。「無電極照明」はそれらを解消した製品で、当社グループも立山製紙(株)殿やL&F富山(株)殿に設置実績がある。

②は「プラペーパー」という商品群。海洋プラスチックごみ問題が深刻化するなか、既に紙製ストローは普及しているが、その他の使い捨てプラ製品の紙化が期待されており、当社も本年より一部をラインナップしている。写真上から「紙ピック」「姫ナイフ」「紙ナイフ」「紙スプーン」「紙マドラー」の順となっている。

③は「カミシェル」という商品名で、廃棄される卵の殻を主原料にして作られた紙である。つまり卵の殻の再利用でSDGsの一環である。(写真は「カミシェル」を使用した当社のカレンダー)

と、いう訳でスダコー(株)も頑張っております!!

- ①左：無電極照明
- ②中央：プラペーパー
- ③右：カミシェル



「定年を迎えて顧みる」

ブリーズベイオペレーション3号株式会社

ホテルグランテラス富山 シニアアドバイザー 兼 グランドホテル白山 総支配人 湯上 均

1, 昭和55年4月、株式会社名鉄トヤマホテルに入社。社会の右も左も分からない18歳が、スーツを着て入社する。4, 5日たってだろうか、入社時ホテル付近歩いていると先輩に出くわす。

姿格好はジーパンにTシャツ。さらにカランコロン下駄の音がする。胸弾ませて入社した私に衝撃が走る。心の中でつぶやく、これって会社？翌日の私は会社についてみると、自分の格好がジーパンにTシャツ。あれれ！

二十歳になった時、私はステーキハウスブルベア担当。(現在みずほ銀行、興銀ビル地下にありました)15席ほどのステーキカウンターに、ある時ヤクザの出所祝いやらで、親分と子分達で満席。「おい、あんちゃん、駐車場案内せい！」子分が私を助手席に乗せて出発。外車で革張りシート。曲がるたびに滑る私に、「静かにせい！」。カウンターで先輩がグラスを配り、私がビールをついで回る。先の方で「ガシャン！」どうやら先輩がグラスを落としたようだ。よりによって親分の横で……。いきなり若頭が「コラばけなにしとんじゃ！」。気づいたら先輩が裏へ入ったきり。すべて私にかぶせる。どうやら親分の知人であった調理長はカウンター越しで知らん顔。心の中でつぶやく、こんな会社辞めてやる。

いよいよ成人式。のはずが、忙しいからと言う理由で行かせてもらえず。心の中でつぶやく、こんな会社絶対に辞めてやる……

2, 下積みも終わり、数年経ったころ前天皇皇后両陛下ご来館。私はコーヒー・紅茶を作る係り。食事も進み、いよいよ私の出番だ。厨房で回りを見ると、皇后警察、お付きの方、保健所、皆私に注目。こんな中で作るのは無理だろ、と心の中でつぶやく。天皇様は紅茶、皇后様はコーヒー。両方たておわると、まずは白い服を着た保健所の方が毒見。次にお付きの方が毒見。OKも出ていよいよ本番。無事終了と思ったが、残った紅茶を一口飲んだ瞬間「やらかした」、超ぬるいではないか。そりゃそうだ、保健所・お付きと出していたらお湯も冷めてしまっていた。馬鹿さ加減にあきれれる。心の中でつぶやく、会社辞めてやる、いや辞めさせられる。

3, 年々仕事が楽しくなってくる。VIPに接する機会があること、有名人に会えること、当然1, 2で述べたこともなくなり、仕事を任せられるたびに楽しくなってくる。さらにお給料も上がっていく。丁度バブル全盛期を体験した。当時は給料も現金支給で、ボーナス年3回。1回のボーナスは机に立つほど。家も建てた。心の中でつぶやく、絶対辞めない。

ところがバブルも崩壊、建てた家のボーナス払い出来ない……

4, 10年前経営移行、現会社に吸収される。私は一体どうなるのか。同期や中堅クラスが辞めていく。自問自答する。どうする、湯上……しかし部下たちのある一言、「私たちを救ってください」。当時3カ所のホテルから誘いあったが、この一言で残留を決める。そして心の中でつぶやく、やるしかない。

5, 最後に

まだまだ書きたい多くの色々な思い出があるが、原稿の都合で割愛する。心の中でつぶやきながら歩んできたホテルマン生活42年。親より家族より長く会社に付き合い定年を迎えた。サラリーマンの宿命でもあるべく姿。今まで何を残せたのか、自分に何を残したのか。まだ契約更新続けていくが、これからはホテルマンを育て、業界発展のために出来ることを貢献していきたい。そして心の中で

つぶやく、ささえてくれた家族に感謝！妻に感謝！ありがとう！……

